

2017年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	戦争・版に刻む記憶			担当者	学芸係 和南城愛理			
会期	6月24日(土)～7月23日(日)			開催日数	26日			
協賛・後援・協力	なし							
巡回館	なし							
展覧会概要	当館の収蔵品から、戦争を主題とする3組の版画集を展示した。カロ、ゴヤ、ディックスという3人の作者はすべて実際に戦争を目撃、あるいは戦闘に加わっており、その体験をもとに作品が制作された。作品に強い表現力があるため、解説は各々が体験した戦争の概要と、画家自身がどのように関わったかにとどめ、1点1点の作品をじっくり見てもらうことを心がけた。							
ねらい・対象	小中学生以上を対象に、画家はなぜ戦争という忌まわしい体験を敢えて作品に描くのか、自分自身に引きつけて来館者に考えてもらう。強い表現をもつ作品なので解説はあえてシンプルにとどめ、作品にこめられた画家の主張を感じてもらうことを狙った。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	ギャラリー・トーク	6月25日(日)	学芸員によるギャラリー・トーク	担当学芸員	15人			
	ギャラリー・トーク	7月9日(日)	学芸員によるギャラリー・トーク	担当学芸員	20人			
	ギャラリー・トーク	7月17日(月)	学芸員によるギャラリー・トーク	担当学芸員	19人			
	プロムナード・コンサート	7月8日(土)	プロムナード・コンサート	山口友由実(ピアノ)	187人			
観覧料	一般	65歳以上	大・高生					
	600円	300円	300円					
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	1225人	611人	1836人	1197人	395人	144人	100人	人
	目標値			3750人				
主な収入 (現在)	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入		その他の特定財源		
	476千円							
事業経費	<p>【主な展覧会開催経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター作成委託料 277千円</li> <li>・ディスプレイ作成業務委託料 455千円</li> <li>・屋外看板作成業務委託料 76千円</li> <li>・マット装額装業務委託料 149千円</li> <li>・作品展示撤去作業委託料 338千円</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 1,295 千円</p>							

主な広報・取材等の講評	読売新聞7月4日号 シティ・ライフ、ぎやらりい・モール(ゴヤ「やはり野獣だ」作品解説) 神奈川新聞7月10日号 文化欄「戦争テーマに版画集展 町田市立国際版画美術館」(下野綾記者)							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	77 件	4 %	45 %	63 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
					90.9 %	89.6 %	77.3 %	
	主なご意見	別紙のとおり。						
反省点と改善方法	予備調査	前年9月頃よりそれぞれの画家および作品に関する文献調査、作品の刷りや状態などのチェック。三人が関わった戦争について、起源や推移を資料により調査した。						
	作品選択	収蔵品の中から、戦争を主題とする代表的なヨーロッパの版画集3組を選択した。他の画家の作品や日本の作品を見たかったとの意見もあった。点数が少ない作家のものを集めて、常設展示室での展示を行うことも可能であろう。						
	印刷物	ちらし用に、各作品集の内容を20字程度で示す短文を作成した(例えば、カロ『戦争の惨禍』=金で雇われた傭兵達の非道ぶりとその末路…)。これはデザイナーの発案によるもので、キャッチコピーのようにして展示やHPでも用いることができ、いいアイデアだったと感じた。						
	ディスプレイ	予算内におさめるため、入口看板や解説パネル、キャプションなどごくごく基本的なもののみで作成にとどめた。解説パネルの記述は手短なものを心がけたが、背景となる戦争のについては不十分な部分があったと指摘された。戦争の原因と推移は複雑で短文にはまとめきれないので、展示室内にもう少し詳しい解説シートを置く、参考図書を紹介するなどの補助的な手段を講じればよかった。						
	広報	地味な展覧会にもかかわらず、読売新聞および神奈川新聞の記事で取上げてもらえた。世界各地でのテロや国内での改憲問題などで、戦争への関心のあらわれだろうか。しかし会期も短く、記事の効果があらわれる前に展覧会が終了してしまった。						
	イベント	ギャラリートークを3回実施した。館長によるギャラリートークは館長の都合により学芸員と交代となった。						
その他特記事項	ディックス作品は著作権があるため会場内の撮影は不可としたが、特にトラブルはなかった。							

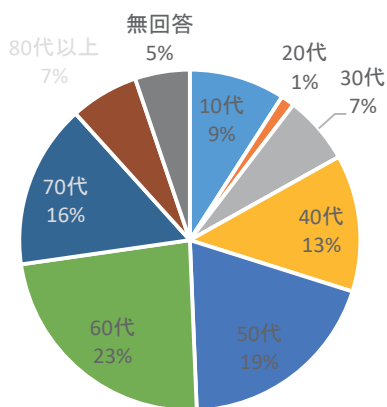
# 「戦争・版に刻む記憶」展

## アンケート集計結果

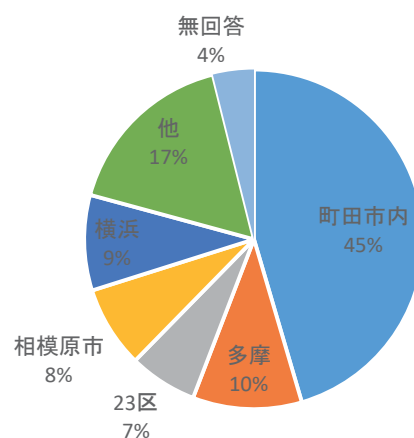
開催期間：2017年6月24日（土）～7月23日（日）

回答者数： 77 人（総入館者数：1,836人 アンケート回収率： 4%）

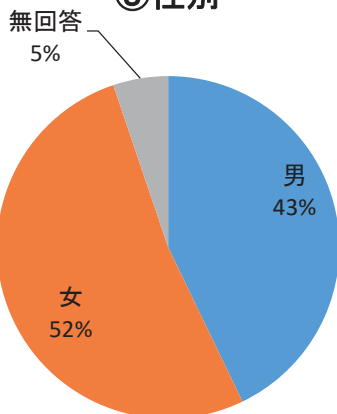
### ① 年齢層



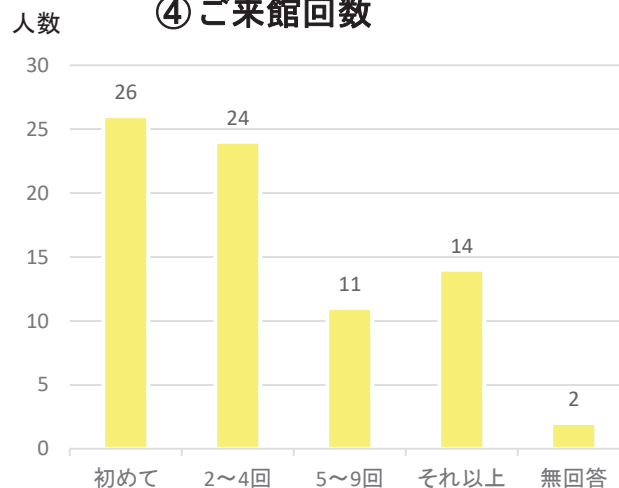
### ② お住まい



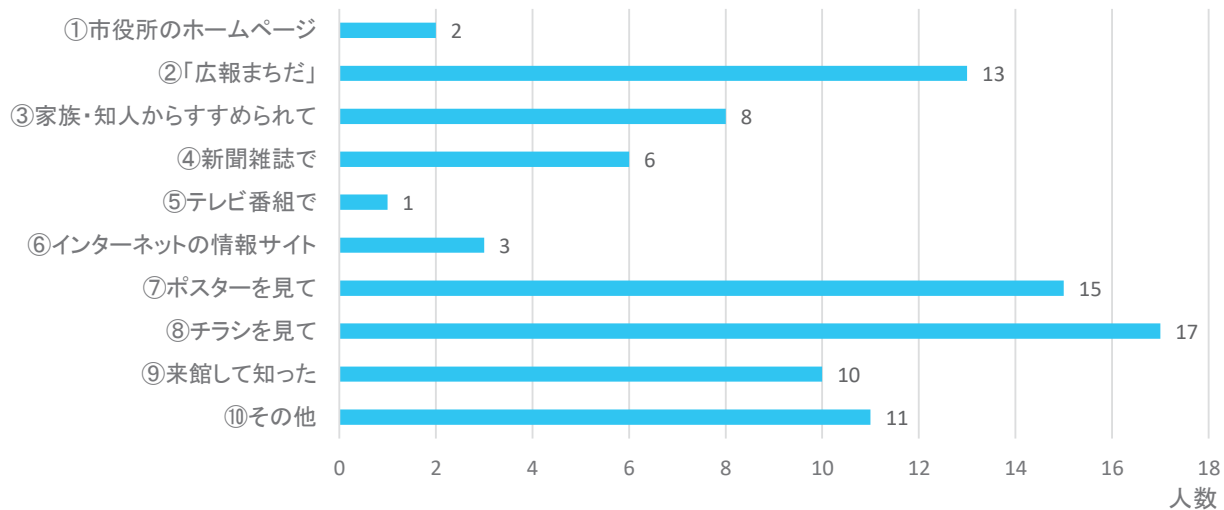
### ③ 性別



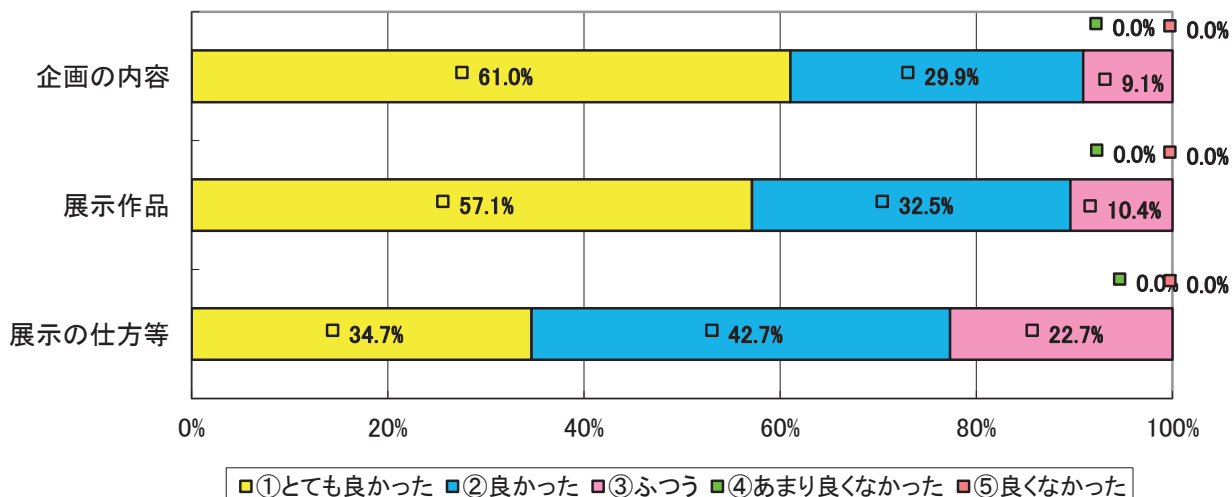
### ④ ご来館回数



### ⑤ 展覧会情報の入手



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

- ◆戦争のテーマは「またか！」というくらい繰り返してもいいと思う。戦争シリーズとして続けてほしい。
- ◆時代にあった企画。先日国連で決議された核禁止条約の歴史的意義を強く感じた。今の時代でもすぐに残酷な戦争状態にすることは可能だと人の心の恐ろしさを感じた。
- ◆戦争の悲惨さを知ることができた。重い内容だが見てよかった。  
戦争の話は学校でしか聞いたことがなく勉強になった。戦争はこんなに残酷かと心に沁みた(10代)  
すこしこわかったけど来てよかった(10代)  
太平洋戦争体験者。胸を打たれて気分が悪くなった。二度と戦争をしてはいけない。(80代以上男性)  
美しいものを表現するのが芸術の目的だと思っていたが、人間の真実を表現してこそ真に偉大な芸術だと思えるようになった。認識が変わった。
- ◆思い切ったいい企画だと思う。戦争を普遍的な「人間の悪」として取り扱う視点がとてもよかった。
- ◆展示がシンプルで作品のインパクトを損ねていない。説明がさっぱりしていてよい。  
見やすく分かりやすい展示だった。
- ◆第一次世界大戦の説明(原因など)がはしょりすぎ。つけるなら正確に。
- ◆連作がまとまってみられてよかった。
- ◆他の作家の作品も出品してほしい(ドーミエ、ルオー、コルヴィッツ、浜田知明、北岡文雄など)。
- ◆いい展示なので、もっと広報して多くの人に見てもらったほうがいい。
- ◆版画美術館の収蔵品はすばらしい。

戦争という重く暗いテーマ、1ヶ月に満たない短い会期、こうした要因もあり入場者数は少なかった。しかしアンケートでは否定的なコメントはほぼ見られず、戦争のテーマの展示を繰り返し開催してほしいと熱心に書く方が複数みられた。今回の企画では出品作品を実際に戦闘を目撃・体験した3人のものに絞った。それぞれの戦争のあり方の特徴(傭兵、徴兵、ゲリラ戦、国家総力戦など)と、画家がどのような立場で戦争を体験したかについてのみ解説パネルを作成した。予算の関係もありシンプルな展示となったが、来館者の感想からは、来館者がそれぞれの立場から画家たちの経験を理解してくれたことがうかがえる。世界各国で頻発するテロの問題や改憲問題など、現代の状況に引きつけて展示を見たという意見もみられ、日頃からこうした問題に関心を寄せている層が来館したことが考えられる。会期が非常に短く、広報が行き渡る前に終了してしまったこともあるが、もともと広報が不十分だとの指摘もみられた。